

つなぐ

Vol.66

2023.11月

人の心臓に『耳』があることを知っているだろうか。心臓の両側に耳のようにくっついているものを、そのものずばり『心耳』と呼ぶ。心房細動により9割の血栓が左心房にある『左心耳（LAA）』で出来ると言われている。

正常な脈であれば、左心耳は血液貯蔵機能、利尿ホルモン産生の機能を果たしているが、心房細動により正常な機能が失われるとただの袋になる。その袋が心房細動により小刻みに震えるため、血流が滞んで血栓が出来やすくなり、出来た血栓が血流に乗り脳の血管まで飛んでいく。これ

が心房性脳梗塞だ。

当院では、この左心耳を閉鎖して脳梗塞リスクを低減させるLAAAC（左心耳閉鎖術）を2019年9月より開始。現在では253件（2023年9月末現在）の治療実績にのぼる。

心房細動になった場合、脳梗塞予防にワルファリンやDOACなどの抗凝固薬を半永久的に内服しなければならず、食事の制約や転倒リスクに気をつける必要がある。しかしLAAAC実施後の臨床試験では、術

後45日でワルファリンを92%、DOACは96.4%の患者が服用を中止出来ており、尚且つワルファリンと比較して手技6ヶ月以降の出血性脳卒中を78%低減、大出血を72%低減させたとの報告がある。※

現在、北九州でLAAACを行っている病院は当院のみだ。治療にはメリット・デメリットが必ず存在するが、選択肢はあればあるだけ良い。一人ひとりの患者に合った最新の治療を提供し、未来へ命をつないでいく。そこそが我々の使命である。

第74回 小倉循環器内科・脳卒中合同セミナー 第2弾 ブレイン・ハート診療 脳卒中×心臓治療の最前線

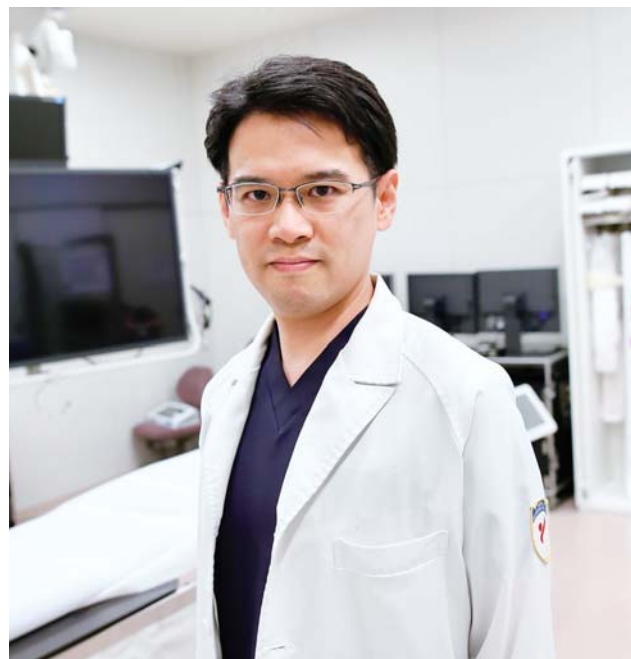
■ 小倉記念病院4F 講堂 ■ 2023年 11月20日(月) 18:00～18:30

座長：循環器内科 主任部長 安藤 献児



脳梗塞急性期治療の 進化と限界

小倉記念病院 脳神経外科
主任部長 波多野 武人



脳梗塞ハイリスク症例に対する LAACの役割

小倉記念病院 循環器内科
副部長 福永 真人

参加方法



ZOOMによる
WEB参加のみとなります！

ZOOMの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民
公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会
→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

